

お互いさまと^{さくたて}作立

今年2月に小清水集会所で町の健康づくり事業である「みんなでワイワイ語ろう会」が開かれた時、「お互いさま」との発言がありました。その時、久しぶりに聞き忘れていた良き習わしを思い出しました。子供の頃、さつきは「大田植え」といって互いに結をして行い、稲刈りでは遅れている家に手伝いに行くのが一般的でした。今では機械化が進み、かつての光景は見られず、個人情報

が守られ、尊重されるようになり、近所付き合いは希薄になってしまいました。
会津藩は天明3年（1783）頃からの数年間、天明の飢饉となり、痛めつけられた農村の救済と生産力向上を図るため農政改革を行いました。その1つが村三役の「老百姓」を「^{おとどびやくしやう}鋤頭」と変え、五人組の責任者にして、今まであったものをさらに強化し、組内が一体化になって暮らすようにと年間の作業計画である「作立」を村ごとに立てさせました。

作立は種浸しから秋じまいまでの作業計画で、そのとおりに仕事ができるようにしました。それにはお互いの連帯責任で助け合わなければならず、家の結びつきも強まり、生産の向上が増し、農村の復興が図られました。小清水で残っている1番古い作立は文化7年（1810）のもので、その他にも残されていますが、年代が変わると作業内容にも変化が見られます。

この作立を井谷では簡単ながら昭和63年（1988）まで立てていました。漆窪では今でも作建（立）を立てています。珍しいのは^{ばれいしょ}馬鈴薯蒔きがあることです。明治19年（1886）、喜多方市山都町寺

内で馬鈴薯の試作とあるので、この頃から馬鈴薯が栽培されたといえます。それでは漆窪でいつから馬鈴薯蒔きを加えたかということ、明治38年（1905）に、天明の飢饉に匹敵する冷害が発生しているのでは、それからではないでしょうか。この時、新郷村では区長に^{わらもち}藁餅作り方講習会の通知を出しています。

世の中が進歩するにつれて、過疎と高齢化が進むそんな折、「お互いさま」を心がけて心豊かに過ごしたいものです。

令和三年作建	漆窪自治区
立	二月三日（水曜）
種浸し	四月四日（日曜）
道路普請	四月十一日（日曜）午前八時
馬鈴薯蒔き	四月二十日（水曜）
蒔き	四月二十日（水曜）
田耕	四月二十六日（月曜）
上げ	五月四日（火曜）午前八時
植え始め	五月十九日（水曜）
道路草刈	六月五日（土曜）午前八時
早苗振り	六月五日（土曜）午後四時
河川草刈	七月二日（金曜）午後四時
作祭り（半夏生）	七月二日（金曜）午後五時半
富士山道草刈	七月四日（日曜）午後五時半
道路草刈	七月四日（日曜）午後五時半
町民体育祭	八月十一日（水曜）午前八時
村祭	九月五日（日曜）
道路普請（生コン）	九月九日（木曜）
秋穫祭	九月十八日（土曜）
御年始め	十一月二日（日曜）
春ノ会	十一月一日（土曜）午後二時
	一月十五日（土曜）午後二時
	一月二十三日（日曜）

令和3年度 漆窪自治区の作建

今月の表紙

今月は、5月11日に行われたこゆりこども園の交通安全教室より。最初に紙芝居やクイズを通して交通ルールについて学んだ後、実際の道路で横断歩道の渡り方の練習をしました。園児たちは左右を見て手を上げ、横断歩道の渡り方を確認していました。



編集後記

表紙の写真選びはいつも悩まされています。特に、私は、報道紙担当となったこの1年は、コロナ禍によるイベントなどの中止や延期が相次ぎ、なかなか苦労しています。

今回は、園児たちの柔らかい表情をうまく撮ることができました。手に取ると思わず笑顔になれる、そんな広報紙を作っていきたいです。（秦）